

令和4年度 学校評価実施報告書

学校名(朱雀中 学校)

教育目標 実社会に生かせる課題解決力と、人と交わるコミュニケーション力をもち、自分の未来を創造する生徒を育てる。	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 「課題解決力・コミュニケーション力を育み、自らの未来を創造する生徒」を目指して、各教科とも指導力の向上に努めてきたが、今年度も学習確認プログラムの結果は若干低下した様子だった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、授業形態も制限され、このような状況でも、教育目標をのものと、各学年・各教科とも、生徒にとって魅力的な授業実践になるよう努め、学年会や教科会を通して授業について積極的に意見交換を行ってきたが、学習確認プログラムの結果から教科指導における課題が見え、来年度に向けた話し合いを行い、課題解決に向け方向性を確認した。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 年3回の学校運営協議会を実施し、生徒や教職員の様子が、資料や、地域に配布されるプリントから見える。良い雰囲気の学校を築いているようだ。また、学校評価アンケートの結果を見ても、教職員と生徒・保護者がよい関係であることが見て取れる。昨年度と比較すると肯定的な回答が増えているが、生徒アンケートで「自分には良いところがある」「夢や希望がある」という項目に対して相変わらず否定的な回答が多いが、学年が上がるにつれ肯定的な意見が増えていることは良いことであると感じる。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月26日	学校運営協議会
最終評価	令和5年 2月 8日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標 ・家庭学習の定着をはじめ、自ら学習する力及び自ら考え表現する力を身につけさせる ・一人一台端末など ICT 機器の効果的な活用を通し、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる。

具体的な取組

1. よんきゅう絆プロジェクト教育構想図「9年間の『学び』」の系統を具現化するために、「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」のテーマのもと、「指導と評価の一体化」の考え方に立って、小中合同の授業研究会を実施し、学習改善・授業改善及び学習評価の改善に取り組む。さらに、小中一貫教育「朱雀中ブロック」で協力して、家庭での自学自習の習慣を身につけるために、家庭学習の具体的な方法などを提示し、授業に繋げる家庭学習の推進を図る。

2. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点から、学習活動の充実を図り、GIGAスクール構想推進のもと、ICT機器の効果的な活用方法を探る。また、講師を招き、充実した研修会を企画する。3. 学習計画表（「明日を切り拓く」）を作成し、教員と生徒で学習目標と学習内容の共有を図る。また、他教科の学習内容を把握することにより、総合的な学習の時間を軸とした「課題解決力とコミュニケーション力」の育成を目指したカリキュラム・マネジメントをすすめる。

4. 学校司書との連携を密に図り、図書館活用を推進し、読書の推進だけでなく、各教科で図書館を活用した授業をすすめ、生徒自らが課題解決学習に取り組む力を育成する。

（取組結果を検証する）各種指標

・ジョイントプログラム・学習確認プログラム・全国学力・学習状況調査の結果

・生徒及び保護者アンケートの結果

- ① 先生の指示や説明は分かりやすい。② 授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されている。
③ 主体的に授業に参加している。④ 授業を受けるのが楽しみである。

中間評価

各種指標結果

3年生の全国学力・学習状況調査、1年生対象のジョイントプログラムは良好な結果といえる。

2年生の学習確認プログラムの結果については、数・理以外の教科で、全市平均に比べて上回っている。3年生の学習確認プログラムの結果については、社以外の教科で、全市平均に比べて上回っている。

本校の強みや弱みをなどに着目し、全市平均を上回っていない教科の分析を行い積極的に授業改善を行う必要がある。また、日々取り組んでいる主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりの実践については、引き続き行う。生徒及び保護者アンケートの結果は①～④の項目についてどれも高い数値を示し、良好である。

自己評価

分析（成果と課題）

主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくりを継続しているなかで、成果に結びつくことが期待できない教科があったことに対し、しっかりとした分析のもと、授業改善に生かしたい。
今回の生徒及び保護者アンケートからも、生徒の学習意欲を感じる。

分析を踏まえた取組の改善

今回の学習確認プログラムの結果を踏まえ、教科会を充実させ、個々の教員の力量を向上することを目指すと同時に、しっかりとした分析の下、授業改善を行う。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

2回目の生徒対象の授業・生活アンケート

- ① 先生の指示や説明は分かりやすい。
② 授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されている。
③ 主体的に授業に参加している。

	④ 授業を受けるのが楽しみである。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校運営協議会において、学校行事等参観していただく機会が少ない中、学校の取組に対して理解を示していただいている。また、保護者アンケートの結果からも先生方がしっかりと取り組んでいただけていることが窺える。 (R4・10月学校運営協議会)

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 2 回目の生徒対象の授業・生活アンケート ・先生の指示や説明は分かりやすい。 - 学年・教科によって多少の差異があるが、97%以上の生徒が各教科に対して肯定的な回答をした。 ・授業の進め方は適切である。 - 学年・教科によって多少の差異があるが、90%以上の生徒が各教科に対して肯定的な回答をした。 ・積極的に授業に参加できている。 - 学年・教科によって多少の差異があるが、95%以上の生徒が各教科に対して肯定的な回答をした。 ・授業を受けるのが楽しみである。 - 学年・教科によって差異が激しい。90%の生徒が肯定的な回答をした教科もある。
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 アンケート結果から授業に対し積極的に取り組んでいる生徒が多いことが分かる。多くの教師が、「主体的・対話的で深い学びをめざした授業づくり」を目指し取り組んでいることがその理由であると推測できる。しかし、教科により改善が必要な現状も見えてきた。今後も授業改善に取り組むなど、各自が授業をマネジメントできる環境を目指していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 アンケート結果は、校内の研修会で共有した。各自の授業研究も進んでいるが、校内研修の充実や校外での研究会への Zoom 参加など、学校目標を達成するための取組をさらに充実させたい。そして、学習指導部長を中心に組織的に取り組み、教師相互の力量を上げていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校の様子をプリント等で拝見して、朱雀中の生徒の一生懸命がんばっている姿がうれしく思った。今後も、他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒の育成につなげて欲しいと感じた。 (R5年2月 学校運営協議会)

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	・思いやりの心を育てるとともに自らを律することのできる生徒とその集団を育てる。 ・場と状況に応じた適切な意思決定を伴った行動ができるように中学生としての意識改革を図る。
具体的な取組	1. 道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」を充実させるとともに、他の様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成する。その上で、やさしく

て、温かい、相手を思いやる気持ちにあふれた校風を継承する。 2. 華道体験等の伝統文化や芸術を通して、豊かな感性や情操を育む取組を充実させる。 3. 他者との関わりを大切に、望ましい人間関係の中で、規範意識を育成するとともに、<u>場と状況に応じた適切な意思決定を伴った正しく判断し行動できる生徒を育成する。</u> 4. 人権学習部を中心に組織的・計画的な「人権学習」を、カリキュラム・マネジメントの視点から構築する。 生徒の「<u>多様性を寛容する力</u>」の向上を教育活動のすべてにおいて意識し、いじめにおいても発生させない、許さない指導の徹底を図り、人権文化の確立を図る。 5. 「人のために」行動することの素晴らしさを知り、そして見守り育ててくれている地域との連携をすすめ、<u>地域に貢献できる生徒を育てる。</u>	
(取組結果を検証する) 各種指標 ・道徳授業で生徒が記入したワークシート ・公開授業(道徳)の際の保護者からの意見 ・生徒アンケートの結果 ① 道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。 ② 友達との約束は守れている。 ③ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。	

中間評価

各種指標結果 道徳授業のワークシートから、多くの生徒が、道徳的な感性が養われていることが分かる。1 回目の生徒アンケートからも同様の結果になっている。また、生徒アンケートの①、②、③の項目も高い数値を示し、豊かな心の育成がなされていることがうかがえる。	
自己評価	分析(成果と課題) 「道徳の時間」や「人権学習」を大切に扱い、丁寧な指導を行っている成果が出ている。今後も道徳の公開授業の取組を進め、実践するなかで、保護者からの意見をいただきたいと考える。今までの取組を実践しながら、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団の形成を目指したい。
	分析を踏まえた取組の改善 今年度も今までの取組を継続し、さらに道徳的実践力を生徒に身につけさせるためにも、「道徳の時間」に限らず日頃の授業、学校行事など教育活動の中で、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していくことを全教職員が意識して取り組んでいくことが必要であると考えます。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 2回目の生徒対象の授業・生活アンケート ①道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。 ②友達との約束は守れている。 ③ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校運営協議会で、「道徳の時間」や「人権学習」について高い評価をいただいた。また、今後の取組に協力したいと申し出をいただいた。 (R4・10月学校運営協議会)

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 2回目の生徒対象の授業・生活アンケート ・道徳の授業は、自分の生活を見直す機会となっている。 1年生92%、2年生95%、3年生90%が肯定的な回答 ・友達との約束は守れている。 全学年とも、ほぼ100%が肯定的な回答 ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。 全学年ともほぼ95%以上が肯定的な回答
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 今年度も、アンケート結果の数値は非常に高く、教職員の日常の取り組みの成果の現れていると感じる。生徒達は、日頃の学校生活を穏やかに過ごし、他者と協働しながら、自らの行動を決定しているようだ。今の学校生活に満足することなく、さらなる高みを目指したい 分析を踏まえた取組の改善 「道徳の授業から学ぶ」ことを大切にする。場と状況を考え、他者との関わりを大切にする。正しく判断し行動できることを大切にする。また、「生徒指導の3機能」の理論を全教職員で共有し、実践をつづけていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 アンケートの結果から、ほとんどの生徒が肯定的な回答をしており、教職員が様々な努力をしていることがわかる。 (R5年2月 学校運営協議会)

(3)「健やかな体」の育成に向けて

	重点目標 ・運動することを通して仲間と力を合わせて頑張る喜びを知るとともに最後までやり通す態度を育てる。 ・健康管理の大切さや自分自身の身の安全を守るための態度を養う。
	具体的な取組 1. 体育学習および運動部活動、また地域の体育的行事を通して、<u>積極的・主体的に運動に取り組み、生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を育てる。</u> 2. <u>正しく感染症を理解し、健康管理の大切さを考え、学校生活を充実させるための望ましい生活習慣を身につけた生徒を育てる。</u>そのためには<u>毎日の生徒の健康観察を</u>ていねいに行う。また、<u>人権学習とも関連させて、自分自身の身を守れる生徒を育てる。</u> 3. <u>社会に潜む危険から自分を守れる行動がとれるなど、自らを律することのできる生徒を育てるために、関連機関等との連携をすすめ、「薬物乱用防止教室」や「非行防止教室」、さらに、様々な災害等を想定した「避難訓練」に取り組む。</u> 4. 食生活等、食に関する指導を進めるとともに、<u>食物アレルギーのある生徒が増加する傾向にある中で、毎日の生活、特に宿泊学習などの校外活動を安心安全なものとするために、教職員が食物アレルギー・アナフィラキシーに対して正しい知識を持つための研修を充実させる。</u>

(取組結果を検証する) 各種指標

生徒及び保護者アンケートの結果

- ① 学校行事に積極的に参加している。② 部活動に楽しく主体的に参加している。
③ 地域の行事に参加している。

中間評価

各種指標結果

アンケートの①については高い数値を示し積極的に参加していることがうかがえる。

②については昨年度に比べ低い数値を示した。

③については地域での行事がほとんどなく数値としては低かった。

自己評価

分析(成果と課題)

学校行事や部活動が単に楽しいものだけで終わらず、積極的に取り組める環境の整備とさらなる高みを目指しながら、その活動を通して子どもたちにつけたい力を教職員が共有し進めたい。

分析を踏まえた取組の改善

今年度も、保健体育の授業や放課後の部活動はもとより、地域の運動会・社会体育に積極的に参加し、主体的に運動に取り組み生涯にわたってスポーツを楽しむ生徒を継続して育てたい。また、社会問題になっていること(感染症対策、薬物問題等)にも積極的に学びの中に取り入れ、意識を高めていきたい。そのために、関係機関等との連携をすすめる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

2 回目の生徒対象の授業・生活アンケート

- ① 学校行事に積極的に参加している。
② 部活動に楽しく意欲的に参加している。
③ 地域の行事に参加している。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校運営協議会で、地域行事が行われれば積極的に参加して欲しいと要望をいただいた。また、若者を取り巻く社会から中学生を守るための方法をみんなで考え、実践していくことを確認した。

(R4・10月学校運営協議会)

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

2 回目の生徒対象の授業・生活アンケート

・学校行事に積極的に参加していますか。

コロナ禍の状況だったが全学年とも94%以上の生徒が肯定的な回答

・部活動に楽しく意欲的に参加していますか。

コロナ禍の状況だったが全学年とも85%以上の生徒が肯定的な回答

・地域の行事に参加している。

地域の行事が少ない中で全学年とも60%台の肯定的な回答

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

今年度もコロナ禍の状況だったが、今できることを考え、工夫した行事や取組を教職員が「目的」・「意義」・「生徒に付けたい力」をしっかりと確認した中で実施でき、生徒にも満足できる内容の取組ができ

価	た。また、生徒は地域にも何らかの形で貢献していることが分かる。 今年度、体力づくりを目的に「第3回スポーツチャレンジ大会」に参加し、昼休み継続的に取組んだ。
	分析を踏まえた取組の改善 今年度もコロナ渦の状況の中であったが、充実した取組ができた。しかし、教職員の働き方改革にも伴い、今後一層の行事の精選・見直しが求められている。また、アンケート結果からもわかるように、行事や取組について、生徒は熱心に参加しており、心身の健康増進につながっていることも事実なので、いろいろな角度から学校全体のマネジメントに努めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 本格的に部活動に励んでいる中学校では休日の地域行事に参加することが困難であることは理解できるが、地域とのつながりをもつ大切な機会ととらえて、教職員から生徒達にも参加を積極的に促して欲しい。 (R5・2月 学校運営協議会)

(4) 学校独自の取組

重点目標 生徒の自己指導力を高める。
具体的な取組 学力向上にも密接な関係のある「生徒の自己指導力を高める」為に、教職員は常に生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。また、あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を設定する。
(取組結果を検証する) 各種指標 生徒及び保護者アンケートの結果 ① 自分にはよいところがあると思う。 ② 学校のルールを守って、学校生活を送れている。 ③ 学校は楽しい。

中間評価

各種指標結果	
1 回目の生徒アンケートの結果から約80%の生徒が、「自分には良いところがある」と答えている。 「学校のルールを守って、学校生活を送れている」は98%を超え、学校生活への意識の高さがうかがえる。また、90%の生徒が「学校は楽しい」と答えている。	
自己評価	分析（成果と課題） 生徒指導の 3 機能を効果的に実践することにより、全教職員が、教育活動の中で自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場の設定を意識して取り組んでいることが高い数値に繋がっている。
	分析を踏まえた取組の改善 生徒の自己指導力を高める為に、教職員は引き続き生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組む。自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教育活動の中で意識して設定するという今までの取組を継続することが大切であると考え。

	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 2回目の生徒対象の授業・生活アンケート ① 自分にはよいところがあると思う。 ② 学校のルールを守って、学校生活を送れている。 ③ 学校は楽しい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校運営協議会の中で、教職員は常に生徒たちの「長所」を視点として全ての教育活動に取り組むという姿勢に共感していただいた。学校の決まり(校則)について、すべての生徒に配慮して慎重に進めて欲しいと意見をいただいた。 (R4・10月学校運営協議会)

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 2回目の生徒対象の授業・生活アンケート ・自分にはよいところがあると思う。 1年生75%、2年生83%、3年生78%が肯定的な回答 ・学校のルールを守って、学校生活を送れている。 全学年とも98%以上が肯定的な回答 ・学校は楽しい。 1年生90%、2年生93%、3年生83%が肯定的な回答
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 満足した学校生活を送っていることが窺える。落ち着いた状態で学校生活を過ごしており、アンケート結果からも規範意識をしっかりと持ちながら学校生活を過ごしていることがわかる。朱雀中学校の継続した取組が今後必要になってくる。 分析を踏まえた取組の改善 コロナ禍の状況の中でも、生徒の満足度は高い。このことが朱雀中学校の伝統だと考える。しかし、従来からの取組の目的を再確認し、再考しながら、形骸化しないように、教職員が意識を持って実践していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 朱雀中の生徒は、表情もよく学校生活を楽しんでいる様子がわかる。アンケート結果からも教職員が丁寧に関わり、生徒自身が自己肯定感を持っているように思う。 (R5年・2月 学校運営協議会)

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	働き方改革に向けて、教職員の意識改革を図ると共に地域・保護者との意識の共有に努める
具体的な取組	・出退勤システムを適切に運用し、教職員の勤務時間縮減と管理を徹底する。 ・教職員定期健康診断の悉皆受診や要精検者への受診指導を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ① ストレスチェック受検率
- ② 出退勤システム分析シートを活用しての月ごとの比較
- ③ 時間外勤務時間の前年度との比較

中間評価

各種指標結果

ストレスチェックの受検率は100パーセントである。教職員の超過勤務に関して、月によって傾向が違うが、超過勤務を大きく超える教職員はほとんどいない。

自己評価

分析(成果と課題)

新型コロナウイルス感染拡大防止対策等のこともあり働き方の改革に大きな影響があった。電話対応19時終了・部活動ガイドライン遵守、週1度のリフレッシュデーの設定が定着しているのも、成果の一つである。今後、超過勤務の時間が増加していることも予想される中で、個々の仕事への意識の変化を、今一度促す必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

今後も、電話対応、部活動ガイドライン、週1度のリフレッシュデーの設定といった取組をしっかりと行う。個々の仕事内容を精選するよう、意識改革を促す。また、行事の精選を積極的に行う。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ① ストレスチェック受検率
- ② 時間外勤務時間の前年度との比較

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

学校運営協議会では、教職員の働き方改革について理解を示していただいた。
(R4・10月学校運営協議会)

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

ストレスチェックは全員受検した。

月ごとに比較しても忙しい時期に増えることは仕方ないが前年度に比べると減少している。

時間外勤務時間は、前年度と比較して減少している。

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

働く環境を知る上でも、ストレスチェックによる教職員の状況を把握することは大切である。大きなストレスを感じる教職員がいないことは安心した。
時間外勤務についても、確実に減少している。しかし、まだまだ個人の働き方(時間の使い方等)に差があり、仕事に対するマネジメントができれば、日常の業務を早く切り上げて、時間外勤務を減らせることが可能になる。行事や取組の見直しとともに、教職員の意識を変えることが必要だと考える。

分析を踏まえた取組の改善

行事や取組の内容の見直しを具体化することが大切である。行事そのものをなくすのではなく、それに係る取組の内容を精査し、かかる時間を大幅に減少すること。こういった意識が、日常の勤務の中にいかせていくことが必要だと考え取り組む。

学 校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	教職員の働き方改革により、勤務時間が縮小できるのであれば賛成です。協力できるところは協力したい。 (R5・2月 学校運営協議会)

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標
他者へのいじめを行わないことはもとより、自分自身がいじめ防止等の取組の当事者となり、その解決に向けて主体的に行動できる「朱雀愛」豊かな生徒を育成する。
具体的な取組
「学校いじめの防止等基本方針」に同じ。
(取組結果を検証する) 各種指標
① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ③ いじめに係る既存の「学校評価生徒アンケート」の「学校は楽しい」「授業や学校生活で気になることがあれば自由に書いてください」の項目や「いじめアンケート」の結果を活用し、教職員が共有するとともに、適切な対応・指導を迅速に行う。 ④ 児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果
① 年度当初の校内研修会において「令和4年度 いじめ防止等基本方針」の内容・取組を全教職員で周知し、対策法など共有した。また、教職員アンケートの「教職員は学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか」項目に対して、「よくできている」が60%、「大体でできている」が40%で理解していると回答している。 ② 4月の始業式で、校内放送にて学校長より学校いじめ対策委員会のメンバーを生徒に周知した。生徒アンケートにも96.6%の生徒が学校いじめ対策委員の先生を知っていて、しっかり見ていてくれていると感じている。 ③ 1回目の「いじめアンケート」結果より、1年生で2名、2年生6名、3年生3名の生徒からいじめにつながる事案を認知し、校内で情報を共有し対応した。 ④ 毎月1回の「いじめ対策委員会」を開催し、生徒や保護者からの相談内容・指導進捗等の情報を共有し、早期発見・早期解決に向けて情報の共有に努めている。教職員アンケートの「いじめアンケートの結果を活用し、情報を共有すると共に、適切な対応・指導を迅速に行っている」項目に対して、「よくできている」が60%「大体でできている」が40%と高い意識を持って取り組んでいる。 「令和4年度 いじめ防止等基本方針」をホームページに掲載すると共に、学校運営協議会やPTA本部役員会に内容を紹介し、周知した。
自己
分析(成果と課題) 「いじめの未然防止」等の校内研修会を行うことで、教職員の意識向上につながった。個々によ

評価	って課題が違うので個に応じた対応が、研修により意識できた。研修を通して、生徒の居場所作り・絆づくりを意識した取組を継続することが未然防止に繋がることを全教職員で確認し、日々の生徒指導に対応していく認識を深めた。
	分析を踏まえた取組の改善 1回目のいじめアンケートに頼らず、日々の生徒の様子や保護者対応に心を配り、いじめの未然防止・早期対応を継続して行いたい。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校はいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ③からかわれる、悪口やいやなことを言われる。(いじめアンケート結果より) ④児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 学校運営協議会において、現在の状況を報告した。また、これまでのいじめ事案等についての取組についても報告をし、意見をいただいた。学校の取組について、理解を示していただいている。 (R4・10月学校運営協議会)

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 教職員アンケートの「教職員は学校いじめ防止基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めているか」項目に対して、「よくできている」が75.2% 「大体でできている」が23.1%の割合で理解している。 ② 学校はいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 対策委員会については学校長より紹介済みである。生徒アンケートの先生たちは一人一人のことをしっかりとみてくれている項目で、94.8%の生徒が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答。 ③ からかわれる、悪口やいやなことを言われる。(いじめアンケート結果より) 2回目の「いじめアンケート」結果より、1年生で5件、2年生1件、3年生2件のいじめ事案を認知。校内で情報共有し経過観察も含めて、指導済みである。 ④ 児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 毎月1回の「いじめ対策委員会」を開催し、相談内容・指導進捗等を情報共有し、早期発見・早期解決に向けて情報共有に努めている。教職員アンケートの「教職員は生徒・保護者の訴え(アンケート結果を含む)や相談内容を共有している」項目に対して、「よくできている」62.5% 「大体でできている」が33.5%と高い意識を持って取り組んでいる。 ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。 「令和4年度 いじめ防止等基本方針」をホームページに掲載すると共に、学校運営協議会やPTA本部役員会に内容を紹介し、継続的に周知している。
自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 日々の教育活動において、きめ細やかな声掛けや生徒の居場所づくり・仲間づくりを意識した取り組みを継続することができているため、未然防止につながっていることを教職員全体で確認し、実践している。全教職員で情報共有し、丁寧な対応をしていきたい。

	分析を踏まえた取組の改善 丁寧な対応の結果、いじめの認知も増えている。このことからさらなる情報共有と、「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を忘れずに日々の生徒の様子や保護者対応に心を配り、いじめの未然防止・早期対応を継続して行いたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 第 3 回学校運営協議会を開催した。おおまかな現状報告をおこない、取組についても報告をおこなった。学校の取組について容認していただき、理解を示していただいた。 (R5・2月 学校運営協議会)